



koryo 陵

雲 High school

〒031-0011 青森県八戸市田向三丁目2番6号/電話 0178-44-3866/FAX 0178-43-9077
https://kouryo-high-school.com/ Eメール kouryo@chibagakuen.ac.jp



～郷土芸能部門～優秀賞

太鼓部門で1位

10月26日(日)、第46回青森県高等学校総合文化祭が「咲かせよう 多彩な華と文化を 届けよう 今しかない青春」のテーマで開催。本校太鼓部は、青森県の星中学・高等学校校明の星ホールを会場とした郷土芸能部門に参加。参加校4校の中で人数は最小の5名だったが、見事太鼓部門では第1位、総合では五所川原一高に次ぐ第2位で郷土芸能部門優秀賞を受賞した。審査員からは太鼓の基礎がしっかりできているとの評価をいただいた。人数の多さは、音の厚みや広がりといった点では有利だが、少ないと、個々の奏者の意識や息遣いがダイレクトに伝わり、個人の技術が際立つ。その分ごまかしがきかないため、一人ひとりの演奏技術や表現力がより重要になり、それが個人の成長を促す。今回は、各部門員が基本に忠実に、それぞれの役割を果たしたことが評価に繋がった。5人で丁寧な織り成した『五色神』の音色は、会場の人たちの心にしっかりと響いていた。優秀賞受賞は、太鼓部員たちの大きな自信になったに違いない。

高同総文

10月21日(火)、「被爆・戦後80年」未来へつなぐ平和のしるべ」と題し、親子で聞く講演会を行った。前半は令和4年度に続いて2度目の来校となる被爆ピアノの伝道師・矢川光則さんの講話を実施。ピアノ調律師で被爆二世でもある矢川さんは、「被爆ピアノ」(爆心地から3キロ圏内で無数のガラス片が突き刺さり、傷だらけになりながらも奇跡的に残ったピアノのこと)を保存・管理しながら、今もなお原爆の惨禍を知る「生き証人」として、自ら運転するトラックで全国を回っている。戦後80年の今年は例年以上に活動の幅が広がっているという。後半は本校卒業生(平成12年度卒)のピアノニスト川代祥治さん(根城中学校出身)による演奏。既存の曲からオリジナル曲まで会場に集まった生徒、保護者たちは、戦禍に耐えたピアノの音色に耳を傾け平和への想いを深めた。また、在校生の歌とコラボレーションをしたりしながら、最後は向陵高校校歌を弾き、全校生徒で歌った。被爆ピアノの伴奏で歌う校歌は、この日限りのものであり、まさに未来へつなぐ平和のしるべとなった。放課後は、軽音楽部の生徒たちと交流。バンド演奏に加わったり、演奏のアドバイスをして下さったり、自身の学生時代の話をして下さったりと盛りだくさんの時間を生徒たちは過ごした。戦後80年、「被爆ピアノの声」「先輩の声」を直に聴いた生徒たちは目を輝かせ、平和の尊さを実感していた。



親子で聞く講演会

文化祭

友情共創～The strong companions～



【クラス展示】
最優秀賞 3年2組
優秀賞 3年1組

少し肌寒い11月15日(土)、向陵祭が行われた。今年是一年一度開催となったが、いつも通りPTAOB会運営の食堂、PTA喫茶コーナーが大盛況に終わった。さらに、キッチンカー6台が参加して下さり、文化祭に花を添えた。美味しい食べ物に楽しい催しが盛りだくさんで、一般来場者、生徒ともに笑顔があふれた一日となった。生徒たちは、準備期間を含めて級友との仲を深め、自分たちの自己表現の場として文化祭を存分に楽しんだようだ。

符が適用される。このことを受け、自転車ヘルメット着用モデル校に指定されている本校生徒に警察からヘルメットが交付された。代表でルールブックを受け取った生徒会長の柄本百絵さん(3年・第三中学校出身)は「事故やけがは本人だけの責任ではないので、一人一人の命を守るのにヘルメットを着用すること、ルールを強化することは大事だと思った」と話した。交付式後は、よこまちストア新井田店前にて、本校サッカー部1年の古館蒼空さん、三角寛太さん(ともに江陽中学校出身)、松川颯蒼さん(青森市立沖館中学校出身)、満尾太陽さん(青森市立造道中学校出身)の4人が八戸警察署、東北フリーブレイスの皆さんと自転車罰則規定変更や自転車に乗る際のヘルメット着用の大切さを呼びかけた。



自転車罰則変更交付式



▲延長戦後半シュートを決めた長谷川さん(八戸北戦)

○11月7日(金) 向陵 8-0 青森・明の星連合
〈得点〉小原 優羽(2年・秦野市立本町中学校出身) 4
鈴木 柊介(2年・大井町立湘光中学校出身)
堀合 佑多(2年・陸上町立陸上中学校出身)
高山 勝吏(2年・湊中学校出身)
松川 颯蒼(1年・青森市立沖館中学校出身)
○11月8日(土) 向陵 1-0 八戸北 ※延長戦
〈得点〉長谷川航太(2年・江東区立深川第四中学校出身)
○11月9日(日) 向陵 0-8 青森山田
青森県サッカー新人大会初戦は、青森商業と青森明の星の連合チームと対戦。新チームの動きの確認をしながら8対0と快勝。続く八戸北戦は、何度も相手ゴールを脅かすも得点に繋がらず、延長戦に突入。延長戦前半も互いに譲らず迎えた後半、敵陣で相手ゴールをパスカットした長谷川航太さんがそのまま持ち込みシュートを決めた。準々決勝の青森山田戦は、実力の差を見せつけられた。しかし、選手たちは「青森山田を倒せるチームになる」という思いをより一層強くした試合となった。

新人戦ベスト8

10月29日(水) 表現活動講座

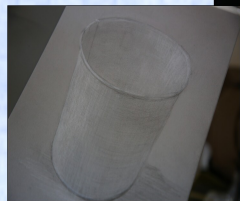
美術コース

3年 高橋 愛子(第三中学校出身)



高校で美術の授業がないので講座がとても楽しみでした。今回は

デッサンとマーブリングを教わりましたが、特に印象に残ったのはデッサンです。私はデッサンを独学で描いていた時期があり、なんと



なく描いていた線にも名前があって感心しました。また、デッサンは自分の頭で想像して描くものではなく、ものの特徴を捉え、見たものをそのまま写し描くことに苦戦しました。少しでもずれてしまったり、グラデーションの濃淡を間違ったりすると立体的に見えなくなるので、よく観察して微調整することを意識しました。そして、壁にデッサンの紙を置き、遠くから見ることが違う視点から改善点を見つけることができました。そのお陰で自分の納得のいくものを描くことができました。

最後、皆の描いたデッサンが黒板に貼られました。同じ紙コップを描いたのですが、その人特有の描き方、大きさ、色の濃さ、光や影の向きがそれぞれ異なり面白かったです。私はデザイン系の仕事に就きたいので、美術のことをもっと学ばなければならな

いと感じました。



ダンスコース

3年 高橋 流那(大館中学校出身)

今回、最初から恥ずかしいという気持ちはあまりなく、結構楽しみなが取り組むことができませんでした。最近、放課後に文化祭の練習で踊っていますが、いつも動かさない筋肉を使ったので、筋肉痛になりました。振付を



覚えるのは簡単ではありませんが、何度も練習するうちに自然と体が動くようになり、少しずつ上達していくのが実感できました。特に皆で考えた振付をグループで練習するときには、タイミングを合わせた

り、互いにアドバイスをしたりすることで、チームワークの大切さを感じました。本番は、全員の動きが揃い、一体感が生まれた瞬間、とても達成感がありました。今回のダンスを通して、細かい関節をしっかり動かすことによって表現の幅が広がるし、動きや表情だけで感情を伝えられるということに気づきました。また、仲間と一緒に一つの作品を作る中で、自分だけでなく周りを意識することの大切さも学びました。全員が同じ方向を向いて努力することで、一人では感じられない達成感や感動が生まれることを身をもって感じました。学年の壁を越えて互いを高め合い、楽しんで活動することができました。

よさこいコース

1年 佐々木 礼登(江陽中学校出身)

私は、チャレンジ講座でよさこいに挑戦しました。最初は、よさこいのことが全く分からなかったのですが調べてみました。すると、よさこいは高知県発祥で、地域活性化や文化振興を目的として始まった踊りだそうなんです。今回は「よっしゃこい」という曲に合わせて踊りました。午前は振付の練習をしました。分からないことが多く、苦戦していましたが、回数を重ねるごとに少しずつ覚えることができました。午後はステージ発表をしました。見ながらでも踊り切るこ

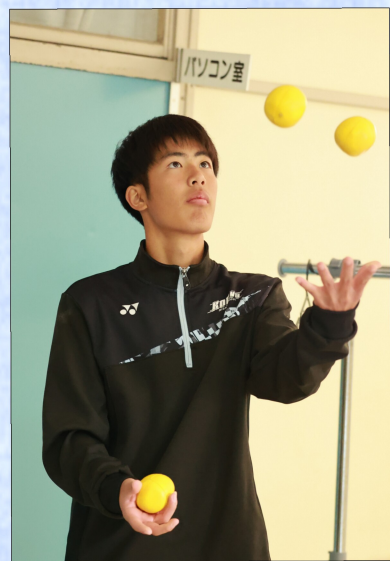


とができたので良かったです。今回の講座のお陰で、よさこいに興味を持つことができた。とてもいい経験になったので、今回来て下さった講師の方々に感謝しています。

ジャグリングコース

3年 栗村 漣(東中学校出身)

私は3回目のジャグリングコースでした。今年は、カスケード(3つ以上の道具を、左右の手で交互に交差させながら投げ続ける最も基本的な技)を手の甲を上にした状態でボールをつかむ練習をしました。上から下に向かって8枚の布で作られたヒートバックというボールをつかむのが難しかったです。なので、最初は基本をやりながら徐々に難しい練習を組み入れていきました。右手は意外にもあっさりできたのですが、左手でつかむことはできませんでした。しかし、何度も繰り返し練習して左手でもつかむことができるようになりました。手の甲を上にしたカスケードは、最後まで粘って練習しましたが、結局連続技ではできずに終わりました。最後の発表では、クラスメイトがとても上手でした。一人は、カスケードをやりながら、ボールを外回しでつかむ技を入れてみたり、私が練習していたクロウ(ボールを体の外側で手首を捻ってキャッチするというトリック)をやったりと動きがとてもなめらかでした。もう一人はシガーボックスを使って技を披露していました。私は、シガーボックスに挑戦してもできなかったのですが、連続技を決めていて凄いなと思いました。クラスメイトにも刺激をもらった最後のチャレンジ講座となりました。また、やる機会があったら今度こそ、手の甲を上にしたカスケードができるようにしたいです。



フラダンスコース

1年 菊地 星風(階上町立階上中学校出身)

人生初のフラダンスでした。体験するまでのフラダンスは「ゆったりとしたエンタメ的なもの」というイメージでした。それは、開始5分で覆りました。ただのストレッチでさえも、硬くて鈍った体には効果てきめんで、少しきつかったです。そして、いざフラダンスに挑戦。まず最初に感じたことは滑らかな動きをすることの難しさです。慣れていないのもありますが、足回りの動きがどうしてもカクカクしてしまいきこちなかったです。そこに別な動きが加わるとさらに訳が分からなくなりました。ステップ単体の動きならよくても、音楽、上半身の動きが加わり一気に難易度が上がります。私は、マルチタスクが苦手な別の動きを平行しながら複数のことをこなすのは至難の業です。なので、振りを覚えるのが大変でした。今回は「苦手なものにどこまで抗えるか」という自分との戦いだったと思います。克服というには、程遠いですが、少しは自分なりに考えて対処しようと努めることができました。マルチタスクの克服は、高校生活を送る上で課題の一つと感じていたのですが、フラダンスを体験してよりはっきりと自覚することができました。苦手なものに直面しても思考をやめない、あきらめないということを、この講座で学ぶことができたと思います。



ドローンコース

2年 坂本 瀬帆(湊中学校出身)

最初に座学をしました。ドローンを操縦するための免許は必要ないこと、操縦するための許可が必要だということが分かりました。ドローンは、一万円くらいの手ごろなものか

ら何百万ものものもあるそうです。次に飛行訓練をしました。コントロールの力加減、向きのコントロールが難しかったです。午後は動画を撮影してCMのようなものを作りました。ドローンの知識や操縦の仕方を知ることができて良かったです。

3年 菊地 遥斗(白山台中学校出身)

ドローン講座で、基礎知識から実践的な動画制作までを体験しました。この講座は、情報技術に興味を持つ私にとって、非常に有意義な時間となりました。午前は、ドローンの扱い方や現代社会での活用事例を学びました。また、資格の説明を受け安全管理の重要性を知りました。簡単な操縦では、機体の挙動に慣れるまで苦戦しましたが、安全飛行ができたときは嬉しかったです。午後は、「飲料水のCM」をテーマに撮影に挑戦しました。グループ内で飛行ルートを相談しながらドローンを飛ばし、編集ソフトで22秒の動画を完成させました。素人作品ながら、映像の流れを整える過程は、創造的に協力する楽しさを味わうことができました。私のグループではドローンでの撮影が上手くいかないトラブルがあったものの、空撮のダイナミックな視点は新鮮で、技術が表現の幅を広げることを実感しました。情報技術に関連するドローンの制御に触れ、将来の学びへの意欲が高まりました。この経験を大学での情報分野の勉強に生かし、技術で社会に貢献する力を身に付けたいと思います。

